

かぶあがりひょうたん御守

ウミネコの繁殖地として国の天然記念物に指定されている八戸の蕪島。その頂にある蕪島神社の「かぶあがりひょうたん御守」が、今、全国から注目的になっています。蕪島の「蕪」と「株」をかけたこのお守り、世界的金融危機・株安もあいまって、購入希望者が続出。さらに「宝くじがあたった」「馬券があたった」などロコミも広がって、県外からも買いに来る人までいます。(かく言う私も、兄に買いに行かされました・・・)

御守に書かれた蕪は厄よけで、蕪島の形のひょうたんは無病息災や蓄財の意味も込められているそうです。また、株価の株だけではなく、それを持つ人自体の運氣があがるということなので、大変ありがたい御守ですね。

また、この蕪島では、ウミネコ爆弾(ファン攻撃)なるものが空から降ってくるということがまありますが、社務所に申請すると「会運証明書」というものがいただけます。その正体は「弁天様のお使いのウミネコより、幸運を授かりました事を証します」と記された絵馬です。

頭にポチャリ、眼にポタリと落とされても、運がつくなら、そして宝があたるなら・・・これはもう、行くしかないですよ。(利野)



か
く
の
や
便
り

第26号
平成21年2月

七子八珍(ななこはっちゃん)

青森には、「七子八珍」と呼ばれるものがあります。青森県近海で獲れる新鮮な魚介類で、旬の時期になると家庭の食卓にのぼる34種類の豊かな海の食材を総称していいいます。

七子は、魚卵の子で名前の最後に子がつく7品「たらこ、帆立のこ、すじこ、ましらこ、ぶりこ、たこのこ、このこ」。

八珍は、珍味と呼ばれる8品「ほや、なまこ、うに、白魚、さめ、くりがに、がさえび、ふじつぼ」です。

それだけでは、まだ15品・・・その他に、青森を代表する「鱈、帆立・ひらめ等」の「堂々九品」、地元で評判高い「アンコウ・ミズタコ・きんきん等」の「隠れ十品」と合わせて全部で34品です。

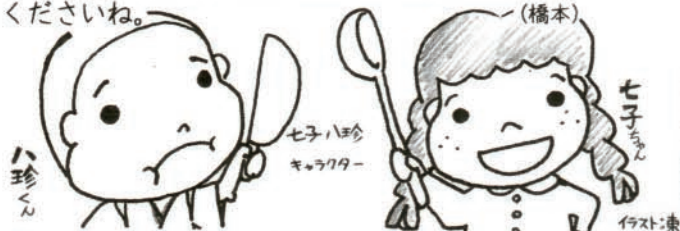
2月は旬の食材が多いということから、2月7日と8日が七子八珍の日になっています。

冬に青森近海で獲れる鱈は、とても大きくて、たらこがたくさん入っているんですよ。

私の家では、たらこににんじん・大根・たらこの肝をおしょうゆ味で煮て食べます。

青森市には、「七子八珍」を使ったお寿司・懐石料理・オリジナル料理などなど、青森の旬を味わえるお店がたくさんあります。

青森にいらっしゃいましたら、ぜひお召し上がりくださいね。



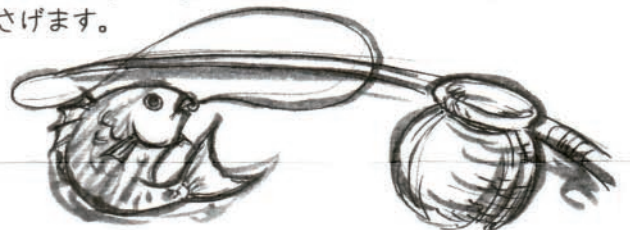
春を待つ風物詩 えんぶり

八戸を代表する民族芸能「えんぶり」は、その年の豊年豊作を祈願するための舞です。

今年も2月17日(火)から四日間にわたり、八戸の各所で行われます。

えんぶりは、馬の頭をかたどった烏帽子(えぼし)を被った男達が、一心不乱に舞う姿がとても勇壮ですが、子供たちによる祝福舞もとても可愛らしく人気があります。

そのうちの「恵比寿舞」では、お囃子に合わせて、釣竿と扇子を使い、鯛を釣るさまを舞います。なかなか釣れない鯛に四苦八苦しながらも、ようやく鯛を釣り上げた恵比寿様は、その鯛をその家の旦那様に差し出し、家内が豊かになるようにと、福德の言葉をささげます。



「一番の春にはえんぶだごうの金を吊り上げて
二番の春には金銀の鯛をどっさりと釣り上げて
三番の春には竜宮様のお姫様を釣り上げて
ここの若旦那とご夫婦なして円満長者と栄えるように」
(中居林組の唄)

このえんぶりが終わると、「寒さが厳しい長い冬も終わり、暖かい春がやってくるんだな」と感じます。えんぶりは、八戸にとって春を待つ風物詩となっています。(村木)

《お客様のお声をお聞かせください》

この紙面や八戸情報に対するお便りの他、「〇〇〇おいしかったよ。」「こんな食べ方が美味しい」といった商品に対するお便りなど、なんでも結構です。お寄せいただいたお客様の喜びの声、ご意見を元に、商品やサービスの向上に反映させていきたいと思ひます。

※返信用封筒が大きくなりました。商品お申し込み票を四つ折でそのままお入れください。

※今後、味の加久の屋からの情報をご不要という方は、お手数でも、ダイレクトメールの封筒を、同封の返信用封筒にお入れになり、ご返送ください。